

ReoAL

2015.10 Vol.26

NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS



「パリの街角」(マリナ・ブラディ 1961年) photo=大竹省二

四方山話に花を咲かせた下戸の二人

須賀 一（会員・東京）

今年の7月2日に大竹先生が急逝されて、本当に驚いた。健康体ということではなかったけど、それなりに元気で、食事はよく食べるし、いろんな話をされて頭もすっかりしていた。これだとまだまだ大丈夫と内心思っていた。それがあっけなく逝ってしまった。まさに巨星が消えて、心に空虚感が残った。

それは、歳を重ねるというのはこういうことなのかと、自分自身に置き換えて実感させられた。

今、悔やまれるのは、今年になって一度も大竹家を訪ねていなかったことだ。以前は、先生から度々電話があつてお宅へ伺っていた。食材を用意して行って、台所を借りて料理し、一緒に食べた。先生は麺類が好物で、鴨南はんをつくとお代わりして美味そうに食べてくれた。今年になって大竹先生から電話がかかってくることもなく、私からも連絡することはなかった。先生の体調とか、状況をあまり深刻に考えていなかった。聞く

ところによると、倒れるまでずっと元気にされていて、入院してからも回復の兆しが見えていたのに急変したそうだ。

享年95で年齢からは大往生であるが、二科会写真部にとつても、日本の写真界にとつても、その損失感は大い。

*

二科会写真部ができたのが今から63年前で、私は当時のことはほとんど知らない。二科会の東郷青児会長からの要請があつて、気鋭の写真家として活躍されていた林忠彦、秋山庄太郎、早田雄二、大竹省二の4先生が創立会員になって二科会写真部ができた、という話は二科に係るようになってから聞いた。

私が二科展に応募するようになったのは大学を卒業してからで、それまでは二科展があることも知らなかった。子どもころからカメラは持っていて、写真はずっとやっていた。写真コンテストにも応募して、ありとあらゆるコンテストに入選していた。誘われて二科展に初応募

したのが1972年の第20回展で、初応募で初入選した。白フクロウの顔をクローズアップ撮影したモノクロ写真1点だったと思う。

今はもうないが、私の自家は上野でも超一流と言われた料亭「同花」で、いつも芸者がボンポコ出入りしていた。親父は粹人で、外国語は話す、茶道はやる、芸者のことはなんでも知っていた。子ども頃から日常的に芸者のいる環境で生活していた私に、芸者と距離を置くように何か道楽をさせようと親父は考えた。

当時、写真界のそうそうたるメンバーがいた写真クラブ「プレザントクラブ」の先生に、息子を預かってくれなにかとあった。それで写真を始めたら面白くなつてのめり込んだ。母親は、写真なんかやらせなきゃよかったと言っていた。

二科展応募で忘れられないのは第31回展で、私の「灯火ともる頃」が旭光学賞になった。この年、二科賞はなく旭光学賞がトップだった。どうして二科賞にし

てくれなかったのか……。あとになって聞いた話だが、林先生は二科賞に推薦したけれど他の先生が反対して、結局、二科賞該当作品なしになった。今でも残念な思いはある。

当時は霞町の秋山スタジオで審査していた。事前に審査日がわかっていて、審査の当日は自宅の電話の前で連絡を待っていた。今の芥川賞とか直木賞の発表と同じで、入選すると「おめでとうございませう」と連絡が入った。

入選、入賞を重ねて1983年に会友推挙になった。その頃から林先生とも、秋山先生とも親しくさせてもらうようになった。林先生との付き合いはもっぱら魚釣り、私が車の運転をよく出かけた。秋山先生とは麻雀メンバーで、夜中まで雀荘で卓を囲んだ。

この頃でも私は、早田先生、大竹先生とはほとんど付き合いがなかった。大竹先生は二科展の審査には顔を見せていたが、それ以外の二科の集まりではあまり



2014年、晩秋の公園で紅葉を楽しむ大竹省二創立会員（撮影＝大竹あゆみ）



<上>「放課後」(静岡・沼津 1937年)
 <右下>「兄弟」(東京・荒川 1938年)
 <左下>「疎開から帰った子」(1947年)



「須賀 一と写真集のおんな」(撮影=大竹省二)

大竹先生のご自宅へ遊びに行ったとき、先生はカメラを持ち出してきて、写真の話をしながらシャッターを切っていた。そこに自然体の私が写っていた。

Ōtake Shōji selection



見かけることがなかった。林先生と秋山先生は二科のことにそれは熱心で、地方のアマチュア写真家とも交流を深めていた。写真部の事務所も秋山スタジオで、助手の若い人たちが事務作業も行ってた。全国47都道府県に支部ができたのも林、秋山両先生が地方へ頻繁に出かけて尽力されたからで、その功績は大きい。

*

大竹先生は凛としていて、プロ写真家として威厳があった。あの頃、大竹先生が地方の支部へ行って審査をしていたかどうかは知らないが、多分、地方のアマチュア写真家とは、それほど親しくされていなかったのではないかとと思う。大竹先生と二科との関係に感じられた距離感、今考えると大竹先生特有のダンディズムだったのではないかとと思う。

林先生と秋山先生を中心に動いていた二科の運営に、大竹先生自らが深く関わることを敢えて控えていたのではないかと。もしそうだとしたら、なぜそうされたのか。その答えは二科会写真部創立時にあるように思えるのだが・・・

私が大竹先生といつから親しくさせてもらうようになったか、私自身思い出せない。大竹先生からちよくちよく電話がかかるようになって、若林のお宅へ伺うようになった。いつも「本がたまったから取りにこないか」という誘いだった。先生とは遠慮なしで、いろんなことを喋った。先生は酒を呑まないし、私も酒を呑まないの、すぐく気が楽だった。下戸の二人が、私のつくった料理を食べながら、四方山話に花を咲かせた。酒を呑まないもの同士、舌が同じだった。写

真の話はしたが、二科の話題はほとんどなかった。大竹先生は写真以外に書も絵もプロ級で、手相も見た。映画監督をされたり、本当に多才だった。

*

秋山先生が亡くなって、創立会員は大竹先生ひとりになった。それはかなりのプレッシャーだったと思う。二科会写真部の代表として、先頭に立って舵取りをすることになった。それまでとは全く違ったスタンスで二科と関わることになった。自分ひとりで全部やらなきゃならぬ。誰を会員推挙にするか、理事や支部長を誰にするか、そういう面倒くさい人事のこともしなくてはならない。一般社団法人の理事長になって、全国組織にまで成長した二科会写真部を引っ張って行くことは、傍目で見ているよりずっと大変なことだったと思う。

*

昨年の12月、暮れの挨拶に行つて、それきりになってしまった。先生から連絡がなくても訪ねて行けばよかった。残念ながら「第100回記念二科展」を迎えることは叶わなかったけど、95歳まで生涯現役を通じたのだから、それは幸せな人生だったと、私は思う。本当に長い間お疲れ様でした。公私ともいろいろお世話になり、ありがとうございました。謹んでご冥福をお祈りいたします。合掌。

「大竹省二創立会員お別れの会」

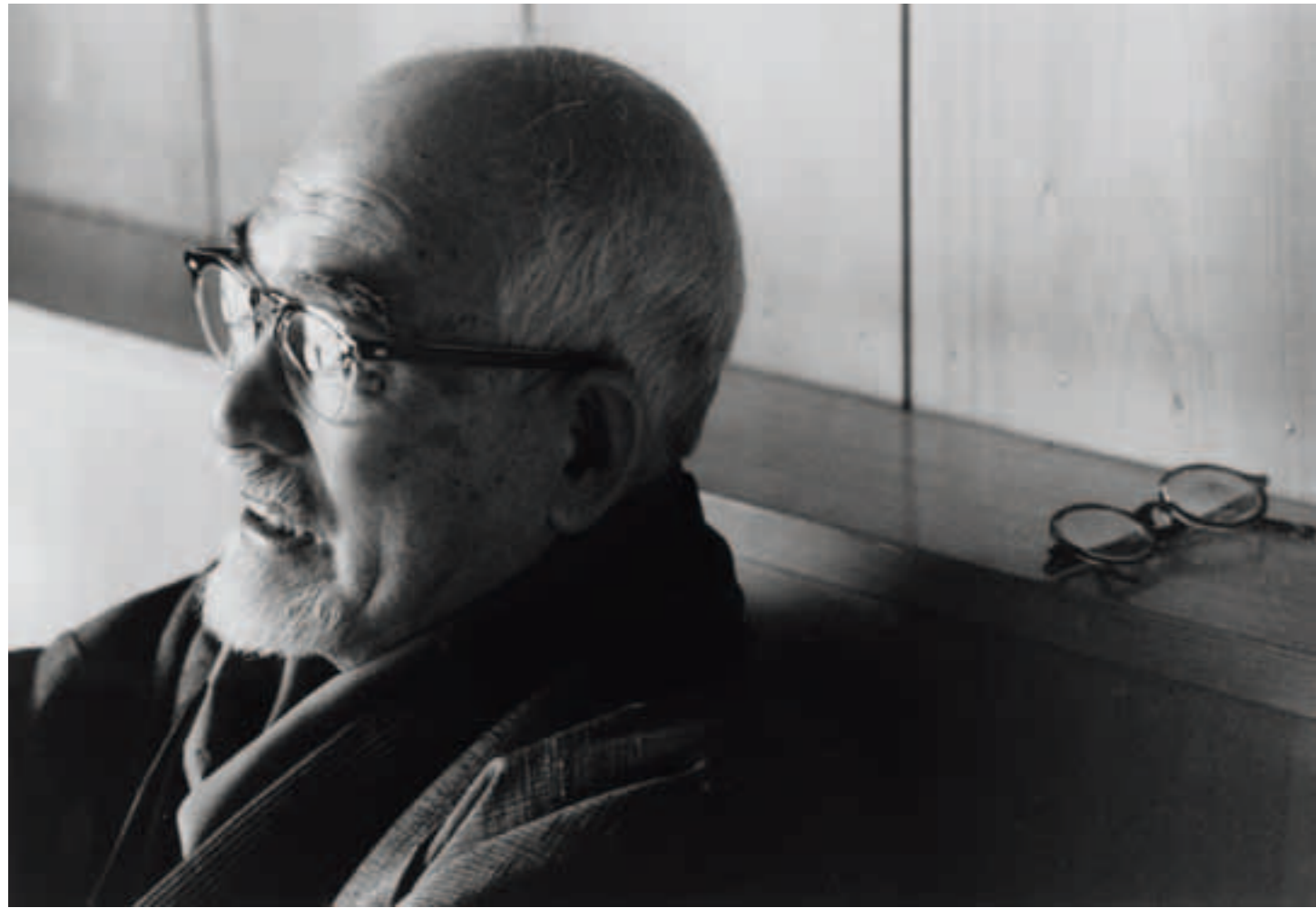
一般社団法人二科会写真部理事長・大竹省二創立会員は、去る2015年7月2日急逝されました。故人を偲ぶ「お別れの会」が9月3日(木)に、東京プリンスホテルで催され、全国から270余名が参列されました。

1953年、新進気鋭の写真家として活躍していた林忠彦、早田雄二、秋山太郎、大竹省二の4名が創立会員となって二科会に「二科会写真部」を創設。大竹省二創立会員は、当初から63年間にわたって「二科会写真部」の発展に尽力されてきました。

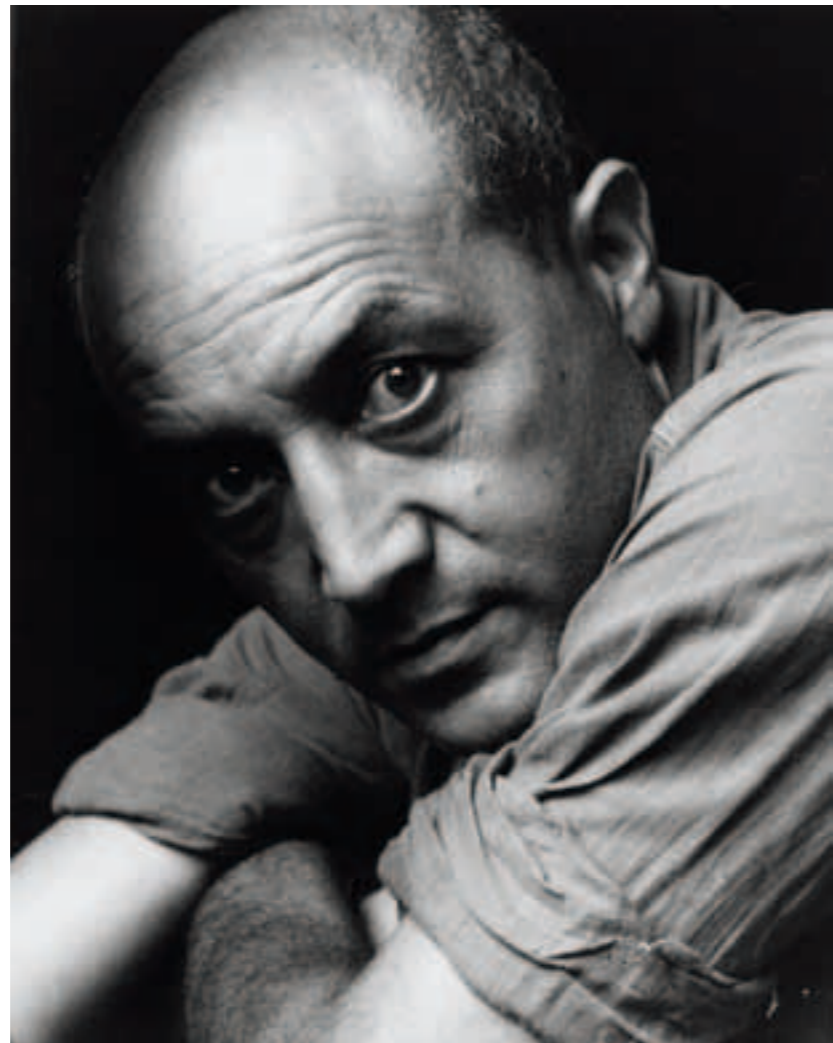
また、2009年に二科会写真部は「一般社団法人二科会写真部」に名称を変更して理事長に就任し、今年まで会の運営を牽引してきました。ここに深く感謝の意を表します。



「お別れの会」祭壇の遺影と感謝状



<上> 「志賀直哉」(小説家)
<下> 「イサム・ノグチ」(彫刻家)



「NUDE」(パリにて)



「雪の朝」(ニューヨーク 1966年)



〈上〉「海で夫を亡くした老女」(ポルトガル・ナザレ 1994年)

〈右下〉「漁師」(オランダ・アムステルダム 1960年)

〈左下〉「グリニッジ・ヴィレッジにて」(ニューヨーク 1966年)





【講評】
 ■無駄のない大胆なフレーミング、そして背景の処理が見事で感心しました。威嚇する雌ライオンに顔をしかめる雄ライオン、牙と顔の皺、ライオン特有の最高の表情が的確なタイミングでとらえられています。瞬間を切り取るスチール写真の醍醐味でしょう。動物撮影の基本は「習性を知り、気長に狙う」のですが、まさにその通りの力作です。迫力のある一枚です。
 (森井禎紹会員)

全国知事会賞「一撃」古池雅之(愛知)



日本カメラ財団賞「春陽」那須裕一郎(福岡)

【講評】
 ■メジロをとらえた写真は、枝ぶりのよい実との組み合わせが多いのですが、この作品は美しい花を画面いっぱい構成しています。2羽のメジロの配置もよく、蜜を吸う瞬間をよくとらえています。画面全体の色調が美しく、絵画的な作品に仕上げられて好感が持てます。
 (蜂須賀秀紀会員)

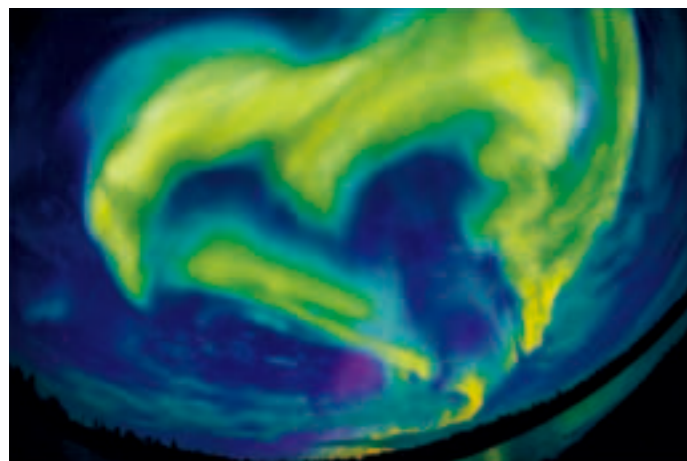


二科賞「愛しき肖像」大海功夫(兵庫)

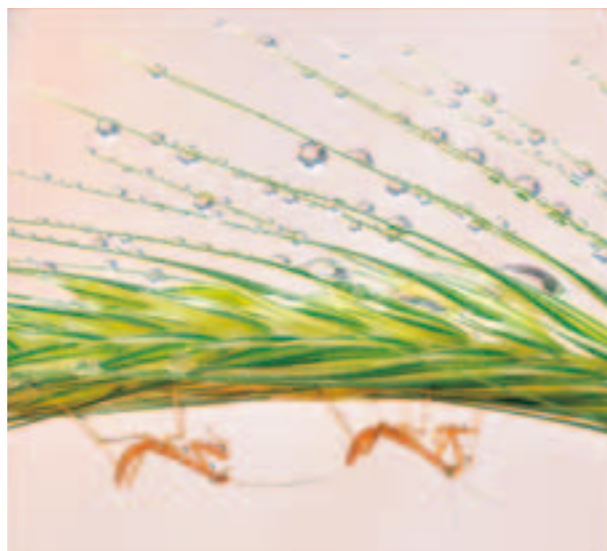
【講評】
 ■都会的な情景の中に佇むシルエット、心に浮かぶイメージの世界を、心象的に表現した作品です。超広角レンズの描写特性と、光と影、色と形を巧みに使って表現していて、魅せる写真に仕上げられました。はじ

めから組写真を念頭に撮影して、作者の感性の素晴らしさが発揮された作品です。
 (森井禎紹会員)
 ■都会の空間とシルエットの人物を組み合わせた心象風景ですが、光と影を絶妙な構

成で作品にしています。人物の配し方と広角レンズの使い方、画面のフレーミングが見事です。3枚の写真にイメージのつながりがあり、作者がイメージする光景が、組写真によってより強調されています。
 (蜂須賀秀紀会員)



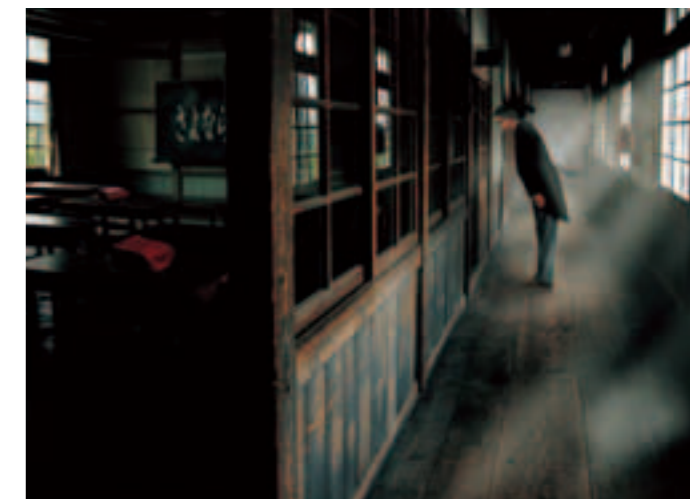
セコニック賞「感喜の笑顔」高見澤 忠(長野)



富士フィルム賞「ある朝」大川元通(茨城)



リコーイメージング賞「想い」安藤三希子(神奈川)



シグマ賞「廃校の朝」入江 弘(岡山)



エイエムエス賞「お年始」吉野聖夫(三重)



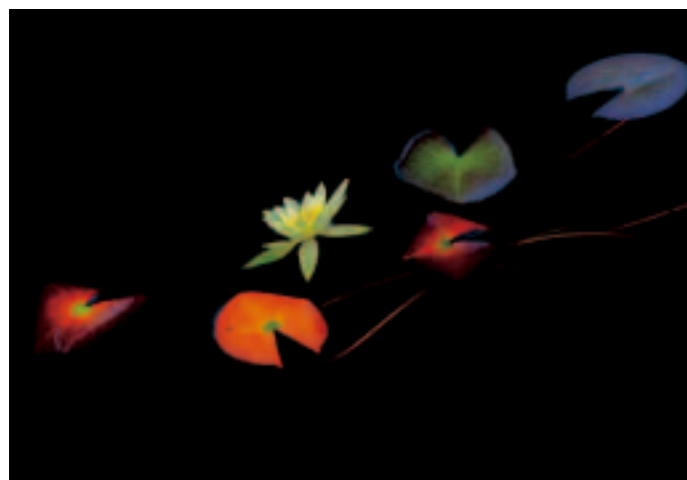
ニコン賞「突進!!」安藤敏夫(愛知)



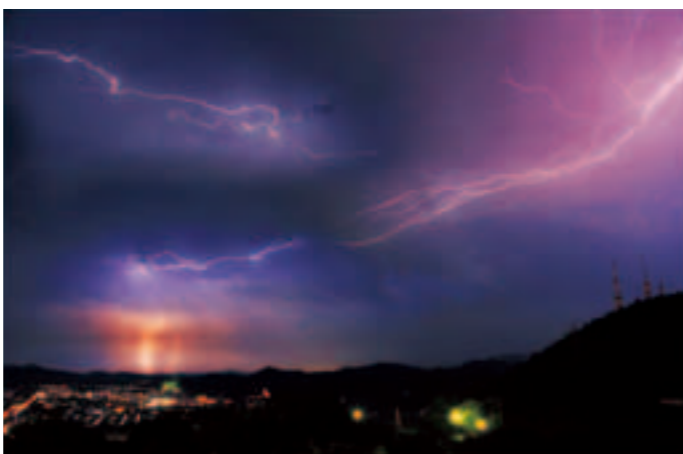
DNP フォトイメージングジャパン賞
「多彩」吉村宏人(神奈川)



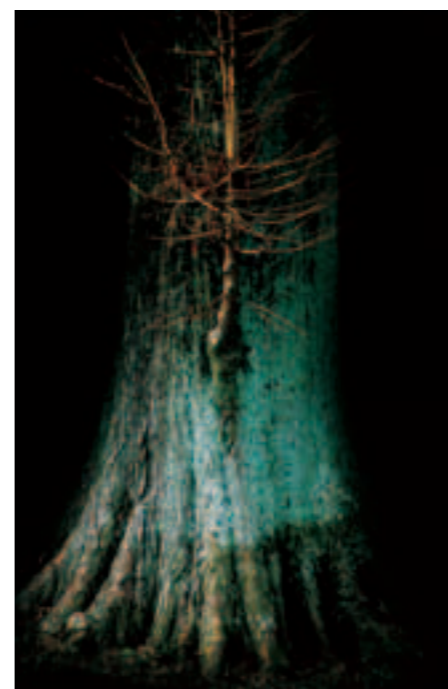
タムロン賞「彩雲襲来」岩間文洋(山梨)



エターナルラボ賞「おそ咲き」秋山義夫(山梨)



加賀ハイテック賞「雷光走る」甲斐靖一(宮崎)



ケイジェイイメージング賞
「輪廻」玉置エミ子(福岡)



オリンパス賞「怒濤」桑嶋宣昭(茨城)



奨励賞
「街の五線譜」 勘田征雄(大阪)



フォトコン賞
「法要の日」 常田 茂(和歌山)



ラボネットワーク賞
「洗心」 高橋純寿(広島)



堀内カラー賞
「母子」 鎌田美津子(三重)



プロラボ ホワイトアース賞
「暮れ泥む紫蘭の宿」 吉川孝雄(福岡)



カラーサイエンスラボ賞
「花魁」 野瀬みつ子(三重)



奨励賞 「大切な我が子」 金尾富士子(広島)



アサヒカメラ賞 「空の響宴」 大田憲子(鹿児島)



フレームマン賞 「夕日に映える」 工藤信朋(新潟)



トミカラー賞 「祭りの日」 中西武臣(兵庫)



奨励賞 「精霊船」 田川知枝子(長崎)



奨励賞 「粧」 田中治子(東京)



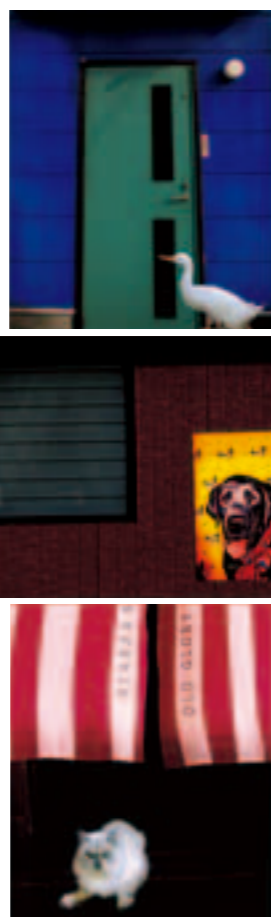
日本カメラ賞 「妖雲彩光」 井出吾朗(山梨)



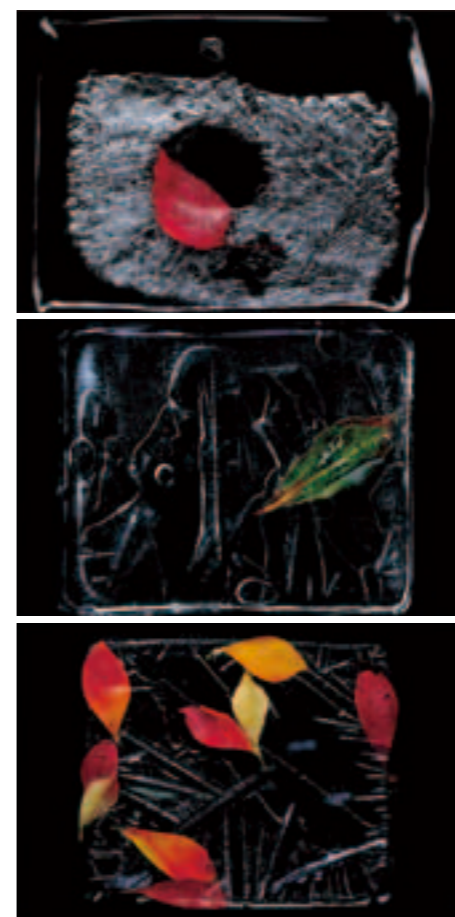
よしみカメラ賞 「裸の祭衆」 福田絹子(宮城)



写真弘社賞「力士」佐藤 登(秋田)



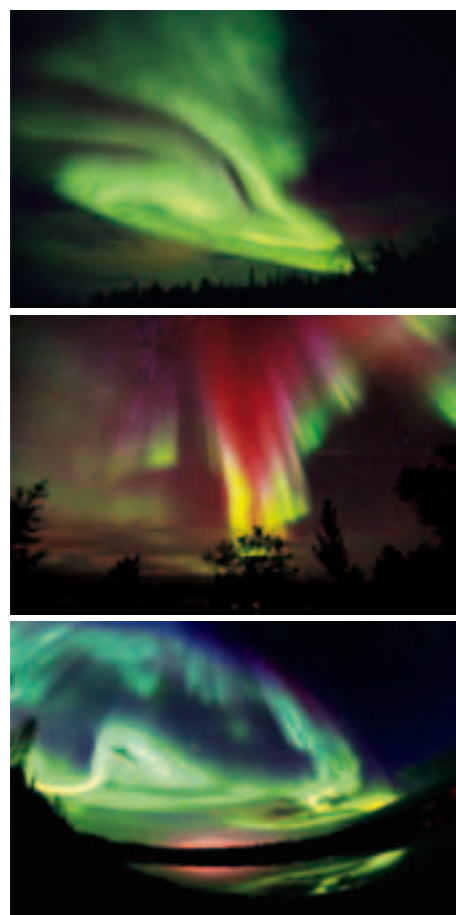
ピクトリコ賞「ペット」山本璋子(滋賀)



エプソン賞
「アイス・アンド・リーフ」小宅葉子(静岡)



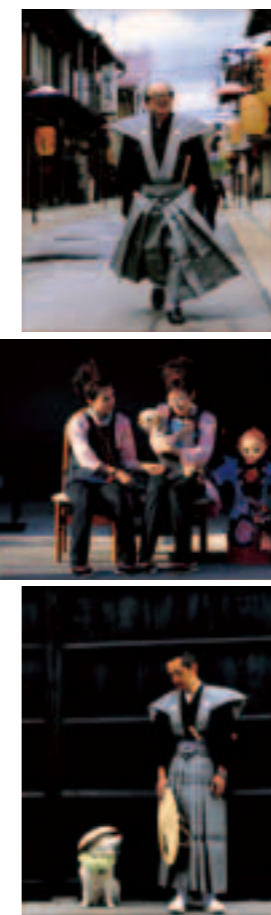
キヤノン賞「遠野の小正月」春名恵美(兵庫)



クリエイト賞
「宇宙の魅惑」大道寺市三郎(山形)



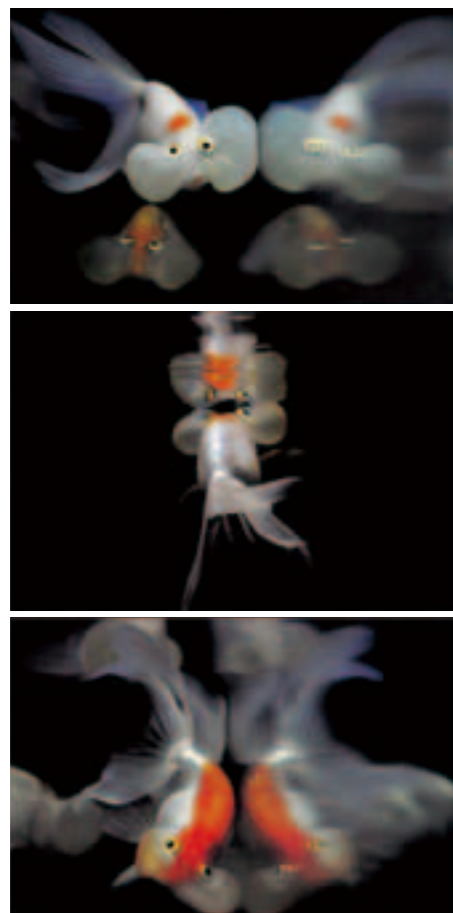
シグマ広島賞「秋日」長谷川公夫(鳥取)



イーストウエスト賞
「祭り日」山本陽子(大阪)



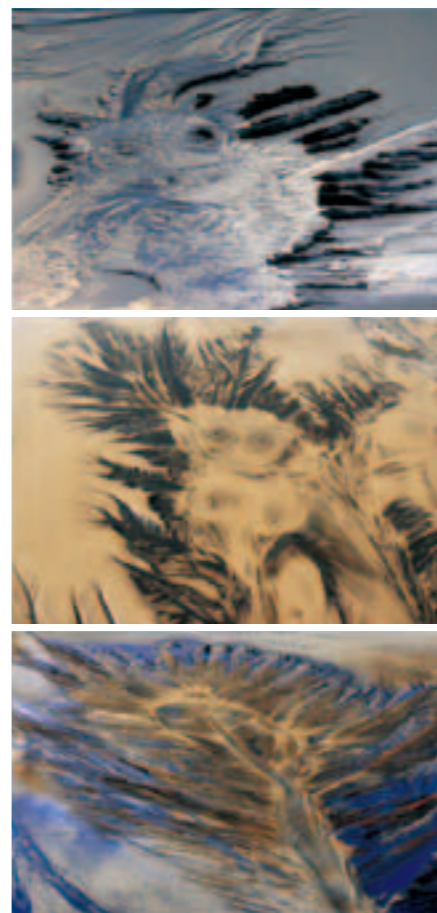
トキナー賞「仲よし」友田 達(大阪)



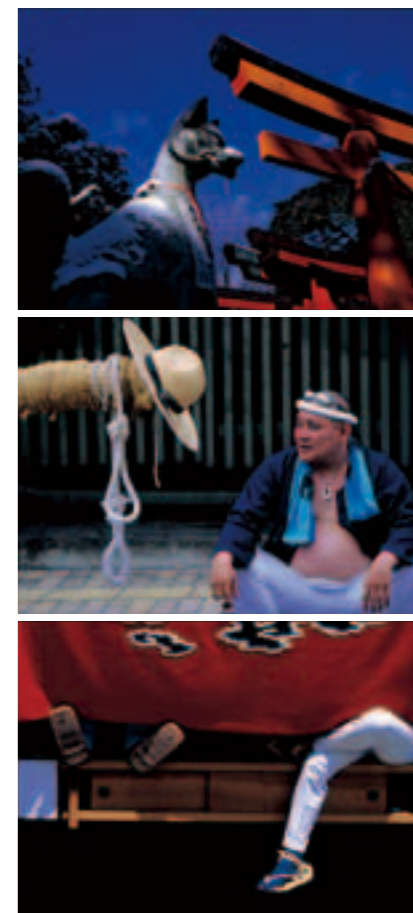
奨励賞「ナルシス」新村全子(静岡)



日本カメラ賞「雪国の小正月」太田信子(岩手)



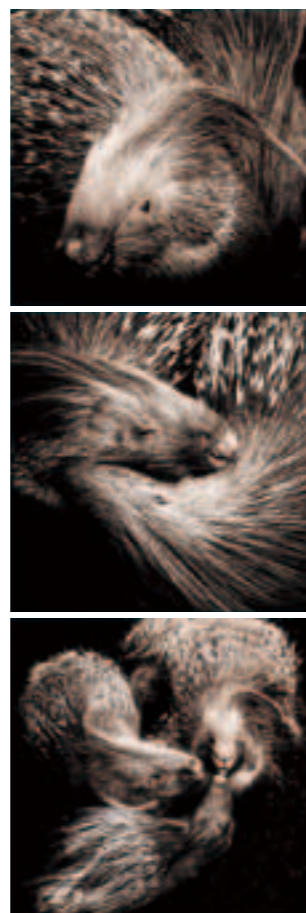
ラボネットワーク賞
「涌水の造形」石川 準(山形)



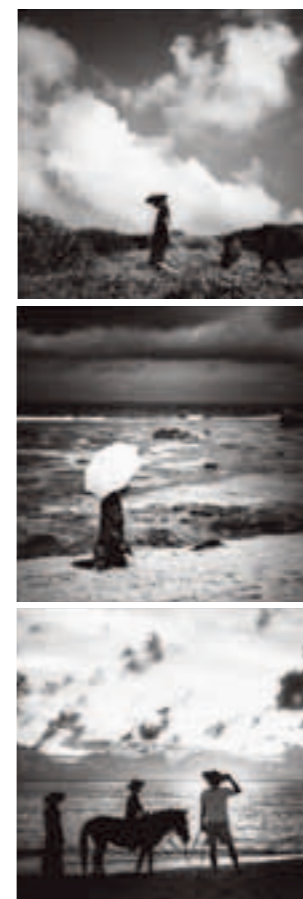
フレームマン賞「祭り日」小田祐子(大阪)



奨励賞
「ふれあい」松島真知子(静岡)



アサヒカメラ賞
「やまあらし」石原京子(東京)



フォトコン賞
「夏色の記憶」青戸好江(東京)



堀内カラー賞「村芝居」吉田慶子(兵庫)



会員努力賞
「2012.1.4. 梅田」 山本博之(特別会員・大阪支部)



会員努力賞
「おめぐみを」 築波正信(会員・佐賀支部)



大竹省二賞「渚のオブジェ」 梅川紀彦(会員・三重支部)



会員努力賞「啄む」 井上良亮(会員・京都支部)



会友努力賞「冬の日」平野史子(会友・徳島支部)



会友努力賞
「名残菓子」永田光弘(会友・長野支部)



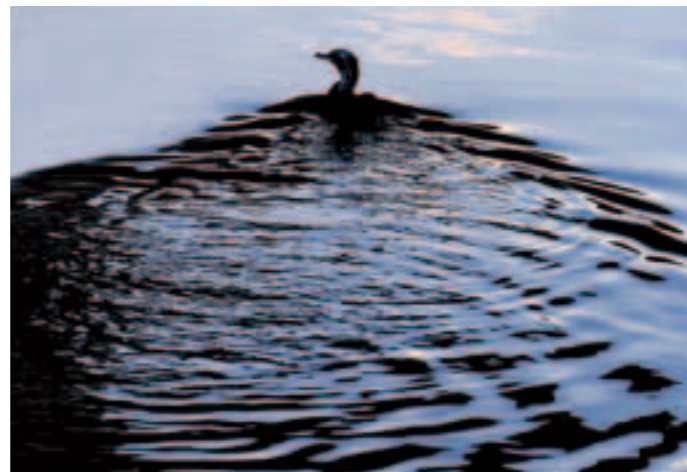
会友努力賞「佳日」佐野和史(会友・徳島支部)



会友努力賞「視線」安野文子(会友・香川支部)



会友努力賞「立夏」出野一雄(会友・埼玉支部)



会友努力賞「悠悠閑閑」川島あつ子(会友・東京支部)



会員努力賞「出会い」村上光宏(会員・三重支部)



会員努力賞
「ナイスキャッチ」小川文男(会員・岩手支部)



会友努力賞「只今レッスン中」吉野孝義(会友・大分支部)



会友努力賞
「少女」樋口哲司(会友・三重支部)



会友努力賞「牧場の朝」吹抜洋美(会友・広島支部)

【第63回展・受賞のこぼれ】

●二科賞

「愛しき肖像」大海功夫(兵庫)
家族をずっと撮ってきました。自分も含めて、影もシルエットも。少し哀しく、ときに少しだけ美しく。かすかに街の匂いが聞こえてくれればなおさらとの思いで、格闘してきたように思います。愛しむ思いがきつとあったのでしょうか。今後その思いを大切に、精進してゆきたいと思っています。お世話になった先生方に心からお礼申し上げます。

●全国知事会賞

「一撃」古池雅之(愛知)
初挑戦で初入選してから連続入選させていた。4度目の今回は、さらに賞までいただき、大変感激しております。この作品は、名古屋の東山動物園に、ライオンの赤ちゃんを撮りに行ったときに撮影しました。一瞬のことで想定外の光景でしたが、落ちついて切り取ることができました。今後さらなる向上を目指したいと思います。

●日本カメラ財団賞

「春陽」那須裕一朗(福岡)
桜の時期、地元の植物公園で撮影しました。この日もなかなかチャンスに恵まれません。メジロが目の前で飛び始めたのは夕暮れどきでした。薄暗い中でピンと合わせには苦労しました。シャッタースピードは上げず、ブレ写真ばかりでしたが、ホバリングの瞬間をとらえることができて幸運でした。受賞を励みに、今後も努力してゆきます。

NEWS FILE

■支部展情報

- 新潟支部展 2015
会期：10月27日(火)～11月1日(日)
会場：りゅうとびあ4階(新潟市民芸術文化会館)
- 京都支部展
会期：10月30日(金)～11月4日(水)
会場：AMS写真館ギャラリー2
- 第21回長野支部公募展
会期：11月10日(火)～15日(日)
会場：八十二銀行本店ギャラリー82
- 会期：11月25日(水)～29日(日)
会場：茅野市民館市民ギャラリー
- 第39回愛知支部公募展
会期：11月10日(火)～15日(日)
会場：愛知県美術館ギャラリーJ室
- 第23回岐阜支部展
会期：11月25日(水)～29日(日)
会場：岐阜県美術館
- 第39回東北地区公募展
会期：11月27日(金)～12月1日(火)
会場：山形県立美術館
- 第32回石川支部公募展
会期：12月2日(水)～6日(日)
会場：石川県立美術館第7展示室
- 第39回福島支部展
会期：12月10日(木)～13日(日)
会場：福島テルサ4階ギャラリー
- 第38回富山支部公募展
会期：2016年1月9日(土)～12日(火)
会場：富山県民会館美術館

●第37回広島支部公募展

会期：2016年1月13日(水)～17日(日)
会場：ふくやま美術館ギャラリー

●第52回山口支部公募展

会期：2016年1月22日(金)～24日(日)
会場：周南市美術館

●第48回神奈川支部公募展

会期：2016年2月5日(金)～7日(日)
会場：山口市小郡文化資料館

●支部公募展作品募集

会期：2016年2月12日(金)～14日(日)
会場：宇部市文化会館

●第38回富山支部公募展

◇応募資格：富山県在住・在勤・出身者
◇テーマ：自由(未発表に限る)

◇サイズ：四ツ切サイズ、デジタルはA4サイズ可

◇応募受付：11月1日(日)～10日(火)必着

◇応募料：5点まで4千円、5点以上は1点につき5百円、支部員は5点まで3千円

◇問合せ先：稲澤一彦富山支部長

☎0765・56・8482

◇賞：富山支部大賞、富山県知事賞、富山県議会議長賞、富山市長賞ほか

●第39回愛知支部公募展

◇応募資格：愛知支部員・一般
◇テーマ：自由(単写真1点とする、未発表に限る)

◇サイズ：全紙パネルマット貼り600×600×25ミリ(厚さ)

◇作品搬入：11月9日(月)13時・愛知県美術館ギャラリーJ室

◇出品料：2千円(支部員は年会費6千円、

一般出品者は、展示協力費6千円を同時に納入)

◇問合せ先：平出勝也愛知支部長

☎0532・52・5680

◇賞：愛知支部大賞、愛知県知事賞、名古屋市長賞ほか

●第48回神奈川支部公募展

◇応募資格：神奈川県在住・在勤・神奈川県の写真クラブ所属者・二科会写真部支部員
◇テーマ：自由(単写真、未発表に限る)

◇サイズ：四ツ切サイズ、デジタルはA4サイズ可
◇応募受付：2016年1月20日(水)～30日(土)必着
◇応募料：1点2千円、支部員は1千5百円
◇問合せ先：榊原俊寿神奈川支部長
☎0465・62・8301
◇賞：神奈川支部二科大賞ほか

■特別会員・会員・会友・支部員情報

- 飛塚英寿作品展「出羽の里ひと」
山形支部・飛塚英寿会員の個展。
会期：9月29日(火)～11月1日(日)
会場：JCIIフォトサロン
- 佐藤玲写真展「Athlete(私はアスリート)」
東京支部・佐藤玲支部員の個展。
会期：10月27日(火)～11月2日(月)
会場：ニコンサロンbis新宿
- 菅田芳文写真展「南ドイツ逍遙」
静岡支部・菅田芳文支部員の個展。
会期：11月21日(土)～29日(日)
会場：静岡市・千代田画廊
- 榊原俊寿写真展
- 伊豆シャボテン公園の仲間たち
神奈川支部・榊原俊寿会員の個展。
会期：2016年1月12日(火)～18日(月)
会場：横浜みなとみらいギャラリーC
- 浜口タカシ写真展「3・11あれから5年」
神奈川支部・浜口タカシ特別会員の個展。
会期：2016年3月8日(火)～14日(月)
会場：横浜みなとみらいギャラリーA
- 八柳吉彦写真集『MESSAGE 世界を巡る』
秋田支部・八柳吉彦会員の作品集。
写真集は原発汚染避難地区の中学校4校の生徒175名に贈呈し、定価の半額はネパール大地震復興支援に寄附。
サイズ170×180ミリ・カラー・定価1800円(税込)
- 西村建子写真集『哀愁の大地―旧満州―』
神奈川支部・西村建子会員の作品集。
サイズ215×155ミリ・モノクロ・定価4800円(税込)
- 西村建子写真集『261・2978』
岐阜支部・近藤誠宏会員が撮影した地歌舞伎衣裳を紹介した図録。企画・編小栗幸江／撮影・近藤誠宏
サイズA4判・カラー・定価3000円(税別)
- 赤尾郁夫写真集『ミャンマー』
岐阜支部・赤尾郁夫支部員の作品集。監修・近藤誠宏会員
サイズ200×230ミリ・モノクロ・定価1800円(税込)
- 赤尾郁夫写真集『4630』
赤尾郁夫 ☎0584・64・4630

「第63回展授賞式」および「第63回二科会写真部展」を開催

「第100回記念二科展Ⅱ第63回二科会写真部展」を9月2日（水）から14日（月）まで国立新美術館（東京）で開催。本年、二科展は第100回を迎え、第100回記念企画として「第100回記念展特別展示」と4部の会員有志による「コラボ展示」「ネコ100態」を同時に開催しました。

第63回二科会写真部展授賞式

第63回二科会写真部展授賞式を9月4日（金）東京プリンスホテルにて開催。来賓をはじめ特別会員・会員・会友、全国から入賞・入選者など800余名が出席され、盛大な授賞式となりました。授賞式は午後2時30分から始まり、森井禎紹理事長代行・常任理事が開会の挨拶。



<上>「二科賞」受賞の大海功夫さん
<中>「全国知事会賞」受賞の古池雅之さん
<下>「日本カメラ財団賞」受賞の那須裕一朗さん

つづいて当日ご出席いただいた来賓65名を紹介して、来賓祝辞を公益社団法人二科会理事長・田中良様、一般社団法人デザイン部理事長・今村昭秀様、富士フィルムイメージングシステムズ株式会社・勝原潤様から賜りました。入賞作品の表彰に移り、最初に二科賞「愛しき肖像」大海功夫さん、全国知事会賞「一撃」古池雅之さん、日本カメラ財団賞「春陽」那須裕一朗さんの授賞を行いました。次に「単写真部門」協賛会社賞22賞と奨励賞4賞を授賞。森井禎紹常任理事が賞状を授与、協賛会社賞はご出席の協賛各社から贈呈されました。つづいて「組写真部門」協賛会社賞14賞と奨励賞2賞を授賞。蜂須賀秀紀常任理事が賞状を授与、協賛会社賞は協賛各社から贈呈されました。入選作品の表彰は、「単写真部門」入選者を代表して山口ゆうこさんが受賞、「組写真部門」は御前匡史さんが代表受賞しました。表彰後、「二科賞」の大海功夫さん、「全国知事会賞」の古池雅之さん、「日本カメラ財団賞」の那須裕一朗さんから受賞挨拶をいただきました。授賞式は滞りなく進行し、午後3時40分に閉会しました。

第63回展懇親会

授賞式から会場を移して午後3時55分から懇親会を行いました。大山荘一会員が開会挨拶を行い、つづいてリコーイメージング株式会社・佐々木淳二様のご発声で乾杯。例年どおり会場には賑やかな会話が飛び交い、恒例の初入選者の紹介にも多数が登場して、全国から参集した方々の交流の場となりました。藤森順治会員が中締め挨拶をして、懇親会は定刻に閉会しました。

第63回二科会写真部展

2015年「第63回二科会写真部展」は、9月2日（水）～14日（月）までの12日間（9月8日休館）、東京・六本木の国立新美術館で開催しました。写真部展示会場には特別会員・会員・会友作品および一般公募の入賞・入選作品の総1350点を展示。会場には連日多数の来場者があり、作品一点一点を熱心に鑑賞されていました。会期中の入場者数は102412名で、「第100回記念二科展」は好評裡に終了しました。

■ギャラリートーク

展示会場でギャラリートークを会期中最初の土曜日と日曜日に行いました。二科賞など一般公募の入賞作品を中心に写真部会員が解説を行い、両日とも多数の方々が熱心に聞き入っていました。
【第1回】9月5日（土）13:30～・藤森順治会員・鈴木洋一会員
【第2回】9月6日（日）10:30～・天内紀元会員・佐藤ちえ子会員

第100回記念特別展示

今年、二科展は100年目の節目を迎え、「第100回記念二科展」として開催しました。第100回記念展の企画として、絵画部・彫刻部が「伝統」、デザイン部が「現在」、写真部が「未来」をコンセプトに特別展示を行いました。絵画部・彫刻部の「伝統」では、日本

第100回記念二科展特別展示会場の写真部展示スペースでは、全国47支部から寄せられた「未来」をイメージした写真をパネルにして展示



近現代美術史における二科展の意義を世に提示すべく、二科会の歴代理事長および多大なる功績を残された洋画家と彫刻家23氏の作品を展示しました。写真部は「未来」をテーマにした写真を募集。全国47支部の特別会員・会員・会友・支部員の559名から、各地の未来へ残したい風景、人々の生活、子どもたち、祭りや行事、伝統文化などの写真が寄せられました。集まった写真を47都道府県別に、特大パネルにレイアウトして展示。同時に3Dソフトで制作した映像を上映しました。会場には多くの鑑賞者が訪れ、好評を得ました。

4部会員の「コラボ展示」

国立新美術館2階の休憩室で、絵画・彫刻・デザイン・写真の会員有志によるコラボ展示を開催しました。「あそび」をメインテーマに個人・グループ参加の作品を展示しました。そしてサブテーマとして「ネコ100態」を募集。4部の会員110名がイメージしたネコたちが大集合しました。写真部からは会員有志30名が参加しました。グループ参加として須賀一会員（東京）は、自身の作品の他にデザイン部会員とコラボした作品を出品しました。

この「コラボ展示」は、好評につき来年度も別のテーマで継続することが4部会議で決定しました。

（事務局長・片岡順一）



会員による作品解説「ギャラリートーク」に大勢の入場者が参集



<上・右下>第63回展の展示会場（国立新美術館）

INFORMATION



■2015年度夏期定時会員会友総会を開催

夏期定時会員会友総会を特別会員・会員・会友の406名が出席して、9月4日(金)に東京プリンスホテルにて開催しました。

最初に森井禎紹理事長代行・常任理事の開会挨拶があり、特別会員・会員・会友各賞の表彰を行いました。「大竹省二賞」1名、「会員努力賞」5名、「会友努力賞」9名を表彰。つづいて本年度の会員推挙者21名に「会員推挙認定書」と「会員バッジ」を授与、会友推挙者64名に「会友推挙認定書」と「会友バッジ」を授与しました。

●2015年度会員推挙者／21名

(2015年9月4日付)

女屋英雄(群馬)、土屋喜俊(長野)、伊藤一生(愛知)、鈴木崇生(愛知)、沼田昭弘(三重)、岡部政治(福岡)、門間至知(秋田)、塚本東明(山形)、矢尾板信孝(山形)、笹川義信(宮城)、矢島富佐恵(東京)、新井啓子(埼玉)、古谷野より子(栃木)、堀内三男(山梨)、鈴木義二(静岡)、河瀬貴明(岐阜)、戸田英義(三重)、中藤章雅(岡山)、安成恒昭(山口)、宇都宮幸種(愛媛)、吉田鉄也(兵庫)

●2015年度会友推挙者／64名

(2015年9月4日付)

赤平 薫(秋田)、佐藤 登(秋田)、渡辺 晃(山形)、紺野勝司(宮城)、福田絹子(宮城)、有川マサコ(東京)、石原京子(東京)、小笠原正忠(東京)、田中治子(東京)、吉田宣子(東京)、Robert K Hirsch(東京)、安藤三希子(神奈川)、小林宏良(神奈川)、青山 勇(千葉)、佐々木節子(埼玉)、不破隆夫(埼玉)、石田なか子(群馬)、原澤徹也(群馬)、寺尾和子(栃木)、小野恵子(茨城)、小林一夫(茨城)、大畑静夫(静岡)、松島真知子(静岡)、藤森悦子(長野)、伊藤五夫(愛知)、佐藤泰三(愛知)、成瀬英雄(愛知)、平川菊雄(愛知)、松尾秀夫(愛知)、石井 清(三重)、今井与八(三重)、牛場和美(三重)、樋口迪夫(三重)、伊藤儀一(滋賀)、八田一徳(滋賀)、山本璋子(滋賀)、

編集後記

「第63回二科会写真部展」は、お陰様で盛況裡に終了しました。今年、二科展は第100回を迎え、記念特別展示などで多くの方々に例年以上のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。大竹省二創立会員が急逝され、一抹の寂しさを感じながらの第63回展でしたが、今後は創立会員の意志を受け継いで前進すべく、二科会写真部一同が決意を新たに未来へ向けスタートしたいと思います。なお一層のご協力とご支援をお願いする次第です。

事務局長・片岡順一

寛 清美(兵庫)、多田孝好(兵庫)、中西武臣(兵庫)、夏目幹也(兵庫)、廣瀬直子(兵庫)、藤井雅子(兵庫)、前橋昌子(兵庫)、森ひろし(兵庫)、森田 尚(兵庫)、吉田慶子(兵庫)、角田公利(和歌山)、常田 茂(和歌山)、登日政章(和歌山)、高橋良彰(大阪)、内藤美智子(大阪)、吉永明美(大阪)、長谷川公夫(鳥取)、前田智博(鳥取)、山本孝之(鳥取)、逸見浩昭(岡山)、片岡澄子(広島)、住吉久由(広島)、濱元 晃(広島)、加藤 豊(山口)、遠藤千代子(熊本)、徳淵郁子(佐賀)、八坂俊明(大分)、平澤 一(福岡)

■『第63回展二科会写真部作品集』

2015年度「第63回二科会写真部展」に展示した総1350作品をオールカラーで収載した貴重な作品集。巻末に入賞者受賞感想、第1回展から第63回展までの入賞者・会員会友推挙者一覧、創立会員・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者の作品目録などを掲載。並製本・サイズA4判変形(297×225ミリ)・カラー380ページ・本文52ページ。

頒布価格15,000円。特別会員・会員・会友・支部員・第63回展入賞者および入選者は特別価格13,000円。支部員以外の第63回展応募者は14,000円(いずれも送料実費)。

※購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請求ください。



『第63回展二科会写真部作品集』

■第100回記念二科展(=第63回写真部展)地方巡回展スケジュール

- 新潟展:2015年9月20日(日)~29日(火)
新潟県民会館(絵画・彫刻のみ)
- 東海展:2015年10月6日(火)~12日(月)
愛知県美術館ギャラリー
- 大阪展:2015年10月27日(火)~11月8日(日)
大阪市立美術館
- 京都展:2015年11月24日(火)~12月6日(日)
京都市美術館
- 広島展:2016年1月5日(火)~10日(日)
広島県立美術館県民ギャラリー
- 鹿児島展:2016年3月11日(金)~20日(日)
鹿児島県歴史資料センター黎明館
- 熊本展:2016年4月5日(火)~17日(日)
熊本県立美術館
- 福岡展:2016年4月19日(火)~24日(日)
福岡市美術館

※会場によって展示スペースが異なるため、全ての作品が展示されない場合もあります。

■特別会員・会員・会友情報

大竹省二創立会員 2015年7月2日逝去
古川隆次郎会員(広島) 2015年8月25日逝去

■「支部員バッジ」を頒布します

二科会写真部では、会員・会友および支部員それぞれにバッジを発行。支部員バッジのデザインは黒地に銀の二葉で、各支部に入会時、支部長が本部へ申請して購入、支部員に



頒布します。支部員バッジが必要な場合は、支部長を通して本部事務局へお申し込みください。

●頒布価格=1個2,000円

二科会写真部広報誌「REAL」Vol.26

2015年10月30日発行

発行所/一般社団法人二科会写真部

編集/一般社団法人二科会写真部

〒106-0031 東京都港区西麻布1-4-20

ワルトハイム西麻布601

TEL. 03-3470-8033 FAX. 03-3470-8034

http://www.nika-shashin.or.jp